

会 議 録

1 会議名 令和5年度 第1回山形市清掃問題審議会

2 開催日時 令和5年7月21日(金) 午前10時30分から正午まで

3 開催場所 山形市役所10階 1001会議室

4 次 第

(1) 開 会

(2) 委嘱状交付

(3) 市長あいさつ

(4) 審議会委員の紹介

(5) 会長・副会長の選出について

(6) 議事録署名人の選出

(7) 報告等

- ・山形市一般廃棄物処理基本計画の目標値にかかる令和4年度実績について
- ・ごみ分別区分の変更について
- ・ごみ分別検索のデジタル化の推進について

(8) その他

(9) 閉会

5 出席者

【委員】 國方委員(会長)、鈴木(雅)委員、山川委員、鈴木(淳)委員、金澤委員(副会長)、
福島委員、原田泰浩氏(後藤委員代理)、國井委員、三部委員、吉田委員、大場委員

【幹事】 環境部長、廃棄物指導課長、ごみ減量推進課長

【書記】 ごみ減量推進課課長補佐、ごみ減量推進課循環型社会計画係長、減量推進係長、
分別収集係長、循環型社会計画係員

【生活排水処理基本計画関係】

廃棄物指導課総括主幹、廃棄物指導課一般廃棄物係長、廃棄物指導課施設係長

6 傍聴者数

一般傍聴者数 2名 記者数 0名

7 資 料

(別添資料1) 山形市一般廃棄物処理基本計画の目標値にかかる令和4年度実績について

(別添資料2) ごみ分別区分の変更について

(別添資料3) ごみ分別検索のデジタル化の推進について

8 内 容 (1)～(6)

- ・開会后、市長から出席委員へ委嘱状が交付された。
- ・市長あいさつ

山形市においては、健康医療先進都市、文化創造都市を2大ビジョンに掲げ、誰もが安心して心豊かに暮らせる、持続可能なまちづくりを目指し、各般の施策を推進している。環境保全に関しては、今年2月に当審議会より答申をいただき策定した「山形市一般廃棄物処理基本計画」において、「みんなでつくる循環型の暮らし」を基本方針に掲げ、市民・事業者・行政の連携・協力により、ごみを出さないライフスタイルの定着を推進している。今年2月には包括連携協定を締結している株式会社メルカリ及び株式会社ソウゾウのご協力のもと、フリマアプリ『メルカリ』内に、県内自治体では初となる「メルカリ Shops」を開設し、市や学校で使われなくなった備品等を希望する方につなぐリユース事業に取り組んでいる。今後は、モノを「捨てる」から「活かす」へ転換する「リユース」が市民の皆様にさらに広がっていくよう様々な取組を実施していく。

また、事業系ごみの排出量は、コロナ禍における事業活動の制限に伴い、令和元年度以降、大幅に減少していたが、事業活動に制限がなくなった後もごみの排出量を増加させないよう、分別の徹底と再資源化への意識向上を図っていく。このような取組を着実に推進するにあたり、当審議会の果たす役割は、大変大きなものであるため、委員の皆様には、今後ともより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

- ・審議会委員と出席幹事の紹介後、審議会の会長として國方委員、副会長として金澤委員が選任され、あいさつを頂いた。
- ・國方会長挨拶

山形市はコロナ禍前までは順調にごみの減量が進んでいた。しかし、感染が広がって以来異常な状況となり、その状況はごみ問題にも色濃く影を落とし、順調な減量という方向に進んでいない。今年に入ってから少しずつ状況も変わってきたため、コロナ禍前と同じように、市民の皆さんと一緒に協力し少しでもごみを減らしていければと思う。もう一つ、事業系のごみは経済活動状況によって変動してしまうものであり、これから経済活動が活発になる中で増加してしまうかもしれないが、少しでも工夫を凝らして減らしていければと思う。

- ・金澤副会長挨拶
- ・議事録署名人について、会長及び会長より指名された吉田委員が選出された。
- ・議長は会長が行った。

(7) 報告等について、ごみ減量推進課長が資料に基づき説明を行った。

以下、質疑応答及び議事経過

- ・山形市一般廃棄物処理基本計画の目標値にかかる令和4年度実績について

発言者	発言要旨
事務局	資料に基づき説明。
原田氏(県)	2ページ目の「令和5年度の取り組みについて」の中で、大規模事業者に作成を義務付けている計画書があるようだが、大規模事業者の定義を教えてください。
事務局	例えば、大規模小売店舗であれば、売場面積が1,000㎡を超えている事業者のこと

	である。
原田氏（県）	売場面積が大きい事業者ということか。
事務局	そういうことである。

・ごみ分別区分の変更について

発言者	発言要旨
事務局	資料に基づき説明。
金澤委員	ビデオテープ、カセットテープは合わせて3本までというのは何か理由があるのか。
事務局	エネルギー回収施設で破砕する際に機械に絡んでしまうためである。一度に大量に投入されると機械に絡みやすくなるため、一袋あたり3本までとしている。現在は埋立ごみの袋を一旦リサイクルセンターに運び、作業員が手作業でテープ類を抜き取って、適宜焼却炉に投入している。
福島委員	レコードは今と昔では材質が違っているが、その区分はどうなっているのか。
事務局	昔のレコードは材質が固く、減溶固化しにくいことから埋立していたが、エネルギー回収施設では古いものも新しいものも焼却可能であるため、すべてプラスチック区分へ変更する。
福島委員	2変更内容の1番の「金属がついているもの」とはどの程度のものをいうのか。
事務局	基本的には一つでも金属がついていれば今まで通り雑貨に出してもらって大丈夫である。

・ごみ分別検索のデジタル化の推進について

発言者	発言要旨
事務局	資料に基づき説明。
議長	今までの説明も踏まえ、皆様に一言ずつコメントをいただければと思う。鈴木委員から。
鈴木（雅）委員	デジタル化推進に関して、スマホなしでは生活できない時代になっていると思うので、進めていかなければならないと思う。一方で、デジタル弱者、高齢者の方への周知を徹底していただければと思う。
山川委員	ごみ減量に対する自治体の取組として、もやせるごみの名称を「分別頑張ったんやけど、燃やすしかないごみ」というように変えたというニュースを見て、すごく面白いと思った。印字を変えることでどのくらい効果がでるのかというのは難しいかもしれないが、広く多くの人に意識付けするという意味では、ごみ袋は皆さん必ず使うものであるため、訴える力としては大きいのではないかと思う。
議長	リサイクルを少しでも進めたいということでは、こういった工夫もあり得るのかな

	と思う。これはまた検討していただければと思う。
鈴木（淳）委員	デジタル化は周知が大変だと思うので、出前講座など積極的に周知していただきたい。審議会でお話したいと思ったことがあるのだが、千歳地区は高齢化が進み、空き家が増えてきており、施設に入られた方が家を管理できず、道路に枝が出ているのを町内会の方が切ってごみに出している。コミュニティがあるから成り立っているが、今は若い人で町内会に入らない人もいるため、コミュニティがなくなったらどういった施策をしていただけるのかと思った。今後、ごみ屋敷などの課題が出てくるのではないかと。
議長	なかなか難しい問題であると思う。ごみの問題だけではなくいろいろな問題に関わってくると思うが、市全体としてどういった解決策があるか検討していただければいけない課題だと思う。
金澤委員	デジタル化についていけない方のために紙ベースの大百科も配布するということが、基本計画の概要版もとてもわかりやすいので、市報に厚紙で折込チラシとしてダイジェスト版であるといいのではないかと。
福島委員	大百科を配らないということであるが、スマホを使わないような高齢者が大百科をもらいに行けるのだろうか。民生委員が届けに行くなどの方法を検討していただければありがたい。
事務局	分別大百科については、有料化の前年度（平成21年度）に全戸配布し、その後は希望者に差し上げている状況である。この度作成する大百科に関しても希望者にはお渡しする予定である。現在も民生委員や町内会の方が取りにこられた場合は必要分を配布している。各町内会で一番いきなりやすい方法をご連絡いただければ対応を検討していきたい。
福島委員	1200世帯分などといった場合にももらえるのか。
事務局	全戸配布としないのは、紙の冊子がいらぬという場合もあり、それがごみとして出てくる実態もあるためだ。希望する方には必ず差し上げたいと思っている。
福島委員	部数としてはあまり多く作らない考えなのか。
事務局	足りなければ増刷で対応する予定である。
大場委員	①分別アプリに関してであるが、単に紙ベースをスマホ上で読み込むだけになってしまうのはちょっと残念である。花の写真を撮るとその花の名前が分かるようなアプリがあるが、ごみの場合もごみの写真を撮るとその分類や名前が分かるような機能があると嬉しい。単に紙ベースを電子化しただけにはならないような一工夫をしていただければと思う。 ②家庭ごみの中で多くを占めているもやせるごみをどう減らしていくかが大事になると思うが、草むしりや剪定をしたものを全てもやせるごみとして出さなければならない部分が非常に気が引けるような感じがある。それもある意味資源であり、自然に返すような形もあると嬉しい。
吉田委員	委員になるまでごみの問題はあまり気にならず、自分の地域でも持って行ってもら

	えないごみがあったが、最近皆さん徹底して残っているごみがない。地域の皆さんとの協力でとてもいい感じになってきているのではないかと思います。
三部委員	不要な備品をフリマアプリで売るとは大変いい取組であると思う。使えるものは長く使う、大事に使うというのが基本だと思われるので、必要としている方に渡っていくような取組を続けていただければと思う。
國井委員	一市民としてごみの分別に苦勞しているため、アプリで識別できるようになることに期待している。高齢者はデジタルに馴染みが無いということもあるので、デジタル化と紙媒体とのバランスを見ながら進めていただきたいと思う。
原田氏（県）	①コロナの制限がなくなり、イベントが増えてきている中で、イベント開催によるごみの排出の動向に注目していきたい。 ②新聞に、鶴岡市のもやせるごみの組成調査をしたところ、四分の一は資源化可能なごみであったという記事が載っていた。分からない人が雑がみを多く入れてしまっているのではないかと考える。雑がみも分ければ十分資源化できるものであるため、市として力を入れていってもらえればと思う。
議長	ぜひ、リサイクルにつながるようデジタル化を進めていただきたい。リサイクルに回すことができるものを市民に伝えていくことが重要である。 リサイクル率も足踏み状態であるため、リサイクルの推進にも利用していただきたい。
事務局	アプリ関係については、検索しても少し表現が違くとヒットしないこともあるため、なるべく多くの表現でヒットするように準備していきたい。また、単発の啓発では周知徹底が難しいリサイクルやリチウムイオン電池の分別について、アプリ内の通知機能を利用し発信していきたい。 また、リサイクルにつながるような関わり方ということだが、雑がみ・食品トレーについてはごみ減量・もったいないねット山形や、山形市消費者連合会とともに啓発活動に特に力を入れているところである。そのおかげもあり、山形市のもやせるごみの中の削減可能なごみは、7.1%まで削減されている。対面でのキャンペーンと併せて、アプリでも資源回収や店頭回収の情報発信をしていきたい。
大場委員	山形市では、もやせるごみの組成分析を定期的に行うことはないのか。
事務局	山形市でも家庭系ごみ、事業系ごみで毎年組成分析を行っており、昨年度、本審議会でも計画策定の審議をいただいた際にも組成分析結果を示している。
大場委員	こういった審議会の場合でも示していただけると面白いと思う。

(8) その他は特になし。

以上